

平成20年度 入試問題国語 解説

二、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(解答は全て句読点、記号も一字とする。)

子どもの頃に読んだ、ちょっとした話がずっと心の中に残っていることがある。次に紹介する話も、少年倶楽部あたりで読んだのだと思うが、妙に印象的で心のなかに残り続けていたものである。

何人かの人が漁船で海釣りに出かけ、夢中になっているうちに、みるみる夕闇が迫り暗くなってしまった。あわてて帰りかけたが潮の流れが変わったのか混乱してしまつて、方角がわからなくなり、そのうちに暗闇になつてしまい、都合の悪いことにも月も出ない。必死になつて灯(たいまつ)だったか?)をかかげて方角を知ろうとするが見当がつかない。そのうち一同のなかの知恵のある人が、灯を消せという、不思議に思いつつ気迫におされて消してしまつと、あたりは真の闇である。しかし、目がだんだんとなれてくると、まったくの闇と思つていたのに遠くの方に浜の町の明りのために、そちらの方が、ぼうーと明るく見えてきた。そこで帰るべき方角がわかり無事に帰ってきた、というのである。

この話を読んで

1

ところが非常に印象的だったことを覚えている。

子ども心にも何かが深く心に残るということはなかなか意味のあることのように、このエピソードは現在の私の仕事に重要な示唆を与えてくれている。

子どもが登校しなくなる。困り切つてその母親が相談に行くと、学校の先生が、「過保護に育てたのが悪い」と言う。そうだ、その通りだと思ひ、それまで子どもの手とり足とりというような世話をしていたのを「一切止めにしてしまふ。ところが、子どもは登校しないどころか、余計に悪くなつてくる気がする。そこで他の人に相談してみると、子どもが育つてゆくためには「甘え」が大切である。子どもに思い切つて甘えさせるといい、と言われる。困つたときの神頼みで、ともかく言われたことをやってみるがうまくゆかない。どうしていいかわからないということ、われわれ専門家のところにやつて来られる。

「過保護はいけない」、「甘えさせることが大切」などの考えは、それはそれなり一理があつて間違いだなどとは言えない。しかし、それは目先を照らしている灯のようなもので、その人にとって大切なことは、そのような目先の解決を焦つて、灯をあちらこちらとかかげて見るのではなく、一度それを消して、闇の中で落ちついて目をこらすことである。そうすると闇と思つていたなかに、ぼうーと光が見えてくるように、自分の心の深みから、本当に自分の子どもが望んでいるのは、どのようなことなのか、いったい子どもを愛するということはどんなことなのか、がだんだんわかってくる。そうなつてくると、解決への方向が見えてくるのである。

不安にかられて、それなりの灯をもつて、うろろろする人(このことをできるだけのことをした、と表現する人もある)に対して、灯を消して暫らくの闇に耐えて貰う仕事を共にするのが、われわれ心理療法家の役割である。このように言つても、闇は怖いので、なかなか灯を消せるものではない。時には、油がつきて灯が自然に消えるまで待たねばならぬときもあるし、急を 5 ときは、灯を取りあげて海に投げ入れるほどのこともしなくてはならぬときがある。そんなことをして、闇のなかに光が必ず見えてくるという保証があるわけでもない。従つて、個々の場合に応じて、心理療法家の判断が必要となつてくるのだが、その点については、ここで論じることはいらない。

もつとも、不安な人は、藁をもつかむ気持ちで居られるので、そのような人に適当に灯を売のを職業にしている人もある。それはそれなりにまた存在意義もあるので、7にわかに善し悪しは言えないが、それは専門の心理療法家ではないことは確かである。

子ども心にも、特に印象に残る話というのは、やはりその人にとって、人生全体を通じての深い意味をもっているものなのだろう。子どもの頃に知つて記憶している話が、現在の自分の職業の本質とミツセツにかかわつてることには気づかれる人は、あんがい多いのではなからうか。

別に心理療法なんかを引き合いに出さなくとも、目先を照らす役に立っている灯・それは他人から与えられた

ものであることが多い。を、敢えて消してしまい、闇のなかに目をこらして遠い目標を見出そうとする勇氣は、誰にとっても、人生のどこかで必要なことと断言していいのではなからうか。最近相場あたりの灯を売る人が増えてきたので、ますます、自分の目に頼って闇の中にもものを見る必要が高くなっていると思われる。

(河合隼雄「こころの処方箋」)

問一 二重傍線部 〱 の漢字はその読みを平仮名で示し、片仮名は漢字にしなさい。

つこう しさ いっさい しば 密接

問二 空欄 1 にあてはまる最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- イ 通常は変わるはずのない、穏やかな潮の流れが、突然変わってしまった
- ロ 舟中一の知恵者が、誰も見当のつかなかった帰るべき方角を、突然示した
- ハ 本来、見えるはずである月が、その日に限って全く見えなかった
- ニ 方向を知るために、一般には自分の行手を照らすと考えられている灯を、消してしまう
- ホ 帰れるはずもない危機的な状況から、全員無事に生還することが出来た

二

* 「このエピソードは現在の私の仕事に重要な示唆を与えてくれている。」重要な示唆とは、例えば、「それは目先を照らしている灯のようなもので、その人にとって大切なことは、そのような目先の解決を焦って、灯をあちらこちらとかかかげて見るのではなく、一度それを消して、闇の中で落ちついて目をこらすことである。」といったことである。

問三 傍線部2を左のように言い換えた場合、() の中にはどのような語句が入るか、本文中より五字で抜き出して答えなさい。

() をはかるための策

目先の解決

* 「それなりの灯をもって、うろろろする」は例えば、『過保護はいけない』、『甘えさせることが大切』などの考え」にすぎり、事態の本質を見極めず、とにかく子供を学校に行かせるようにすることである。つまり、「それなりの灯」とは物事を真に解決しようとする策ではなく、眼前の事態をとりあえず解決するための策のことである。

問四 傍線部3はどのようなことを指すか、次から一つ選び、記号で答えなさい。

- イ 解決策が見つからず、手詰まりになることが心配であるということ。
- ロ 問題がさらに悪化するのではないかと危惧すること。
- ハ 無策のまま問題と対峙することが不安であるということ。
- ニ 問題がいつまでも解決しないのではないかと懸念すること。
- ホ 問題がどれだけ深刻であるか憂えること。

八

* 「闇」とは解決のための方策が見えない状態を指す。このような状態で問題と向き合うことを「怖い」と述べているのである。

問五 傍線部4とはどのような状態を指すか、次から一つ選び、記号で答えなさい。

- イ 問題を解決するための気力が失せてしまった状態。
- ロ 問題を解決するための手段がなくなってしまった状態。
- ハ 問題を解決するための助力が全く得られない状態。
- ニ 問題を解決するための指針が全く見つからない状態。
- ホ 問題を解決するための議論をし尽くした状態。

□

* 「油が尽きて灯が自然に消える」とは、策が尽きて、なくなってしまった状態を指す。

問六 動詞「要す」を 5 に入るように適切な形に活用して答えなさい。

要する

* サ行変格活用 連体形 (「要す」は文語体)

問七 傍線部6「藁」を用いた諺では波線部「不安な人」をどのように表現しているか、四字で答えなさい。

溺れる者

* 溺れる者は藁をもつかむ

問八 傍線部7の語の本文中での意味を次から一つ選び、記号で答えなさい。

- イ 急に □ 即座に ハ 明確に ニ 不意に ホ 特に

□

* にわかに・・・突然に、すぐに ここでは「すぐに」の意

問九 本文中で「真の解決に結びつくような策」という意味で用いられている漢字一字を抜き出して答えなさい。

光

* 「闇と思っていたなかに、ぼうーと光が見えてくるように、自分の心の深みから、本当に自分の子どもが望んでいるのは、どのようなことなのか、いったい子どもを愛するということはどんなことなのか、がだんだんわかってくる。そうなってくると、解決への方向が見えてくるのである」

問十 筆者はなぜ闇の中で灯を消す必要があると考えているのか、次から一つ選び、記号で答えなさい。

- イ 行く手を照らす灯が隠していた事実を丸見えにしてしまうから。
- ロ 自らが目指す到達点に既に灯がともされているから。
- ハ 火を消すことが大勢の人に助けを求める合図となるから。
- ニ 灯をとんでも結局は誰かにそれを消されてしまうから。
- ホ 目先を照らす灯が物事の本質を見えにくくしてしまうから。

ホ

* 明かりを消すことにより、初めて、今まで見えなかった物事の本質が見えるようになる。すなわち、目先を照らす灯が物事の本質を見極める障害となるからである。